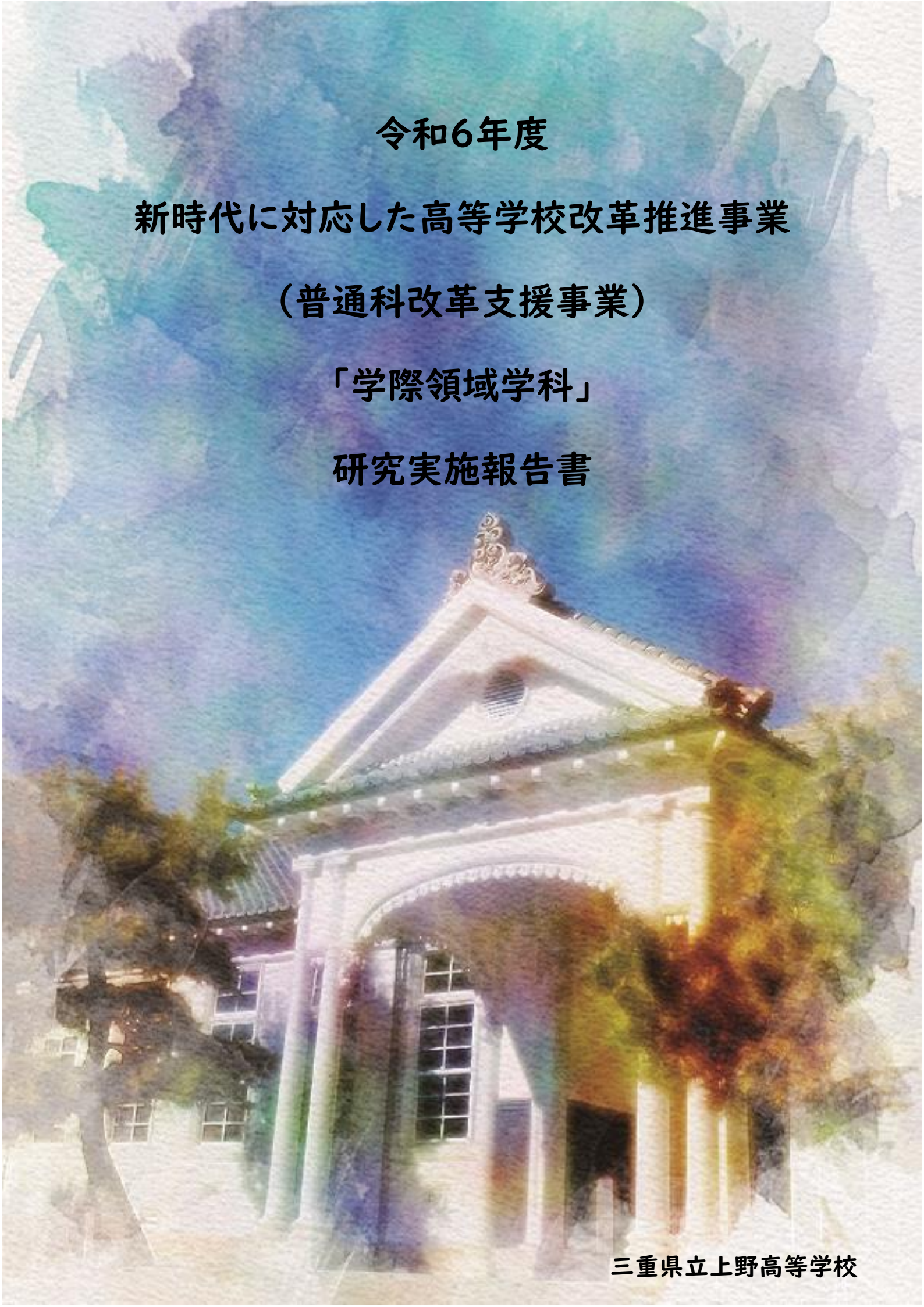
令和6年度

新時代に対応した高等学校改革推進事業

（普通科改革支援事業）

「学際領域学科」

研究実施報告書



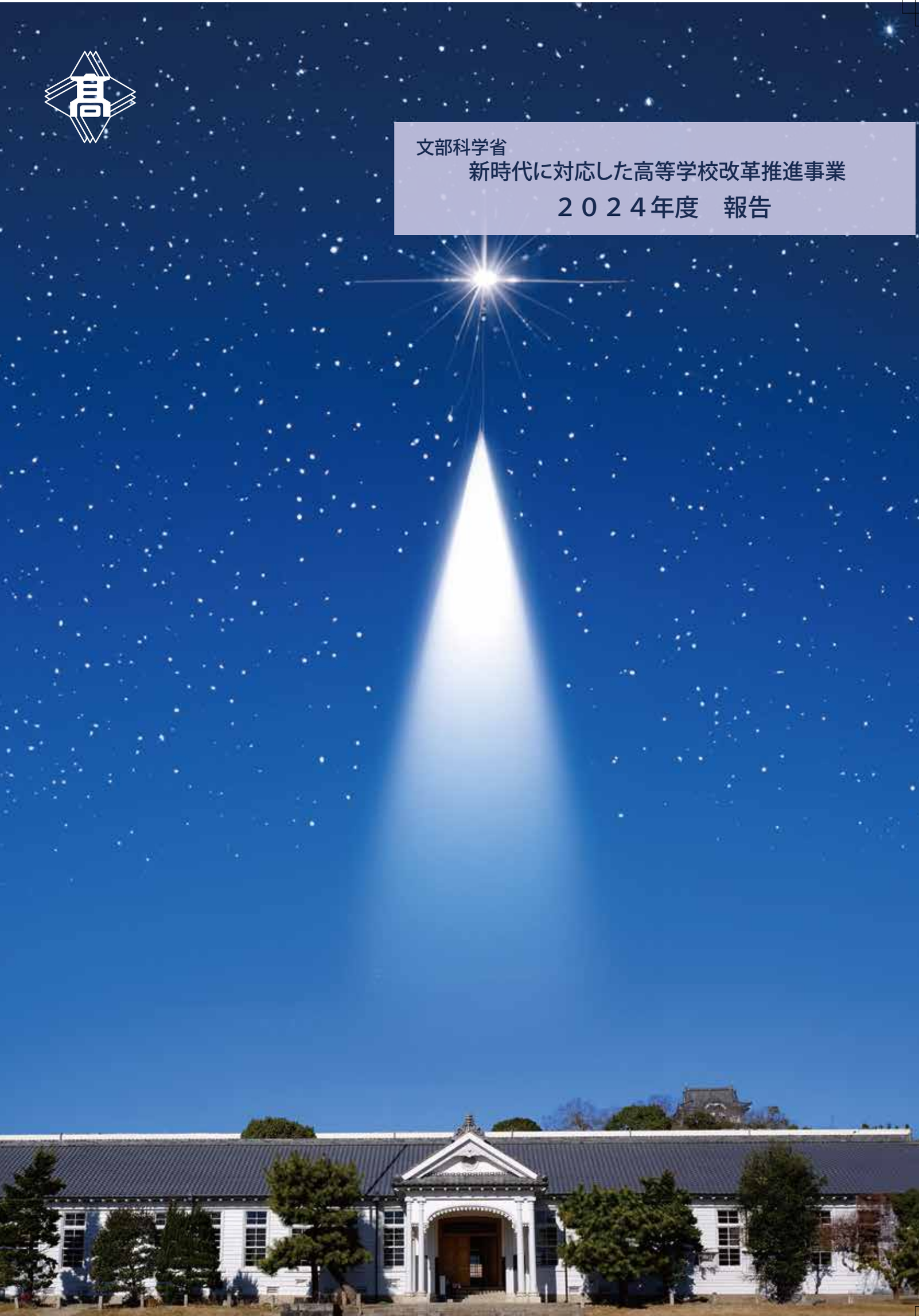
三重県立上野高等学校

取組概要

文部科学省

新時代に対応した高等学校改革推進事業

２０２４年度　報告



新しい時代のために

「Society5.0」と言われる時代が来ていることを多くの人が実感していると思います。例えば、2024年度は、大規模言語モデルを代表とする生成AIが一気に実用化された年となったように、技術革新が長足の進歩を遂げると同時に、今まで誰も考えなかった様々な課題も生まれています。

新時代に対応した高等学校改革推進事業

このような新しい時代にあっては高等学校の教育のあり方も変化しなくてはなりません。特に全高校生の約6割が学ぶ普通科では、新時代に対応した学習プログラムが必要と言われています。そこで文部科学省では「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」を実施し、三重県では唯一、上野高等学校が実施校として選ばれました。令和6年度までの実践と成果を踏まえ、令和7年度からは新学科「学際探究科」が開設されることになりました。これにより、これまでのパイロットプロジェクトで培ってきた探究的な学びの手法や成果を、より体系的なカリキュラムとして展開していくことが可能となります。

令和6年度の取組

令和6年度は、パイロットプロジェクトを継続して実施し、新たに1年生から希望を募り39名が参加、2年生は昨年度からの継続組43名が活動に取り組みました。1年生は昨年度のカリキュラムをブラッシュアップした内容で学習を進め、2年生は本格的な探究活動へと移行し、14のチームに分かれてSDGsの課題解決を目指した能動的な探究活動を展開しました。各チームは様々な人々の支援を受けながら活動を進め、成果を上げることができました。また、令和7年度に新設される「学際探究科」に向けて、発表動画をweb上に蓄積するなど、新学科のための準備活動も並行して行いました。担当教員2名と普通科改革コーディネーターが引き続き指導に当たり、プロジェクト全体を支援しました。

文部科学省　新時代に対応した高等学校改革推進事業

令和3年1月の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化（普通科改革）や教科等横断的な学習の推進による資質･能力の育成を実現するため、令和4年度から設置が可能となる学際領域学科及び地域社会学科の設置を予定している学校の取組を推進するとともに、遠隔･オンライン教育等を活用した新たな教育方法を用いたカリキュラム開発等のモデル事業を実施する。加えて、新学科における学びや教科等横断的な学びを実現するためには、地域、大学、国際機関等との連携協力、調整が必要であり、その役割を担う「コーディネーター」について、その育成や活用を支援するための全国プラットフォームを構築する。

■ 推進計画

長期的目標	伊賀を想い、世界を見据え、社会の課題に挑戦し続ける人材の育成
中期的目標	「社会の形成者としての自覚と責任を持ち、他者と協働しながら、解決に向けて主体的に行動する力」の育成
R６年度目標	「国内外を学びの場とした探究プログラムの開発」を柱とした教育課程の編成

学びの２本柱

1.新しい時代に対応したカリキュラム及び教育方法の開発

① 探究を核とした教育課程の実現

② 文理が融合した新たな学びの実現

③ 地域に根差した教育の実現

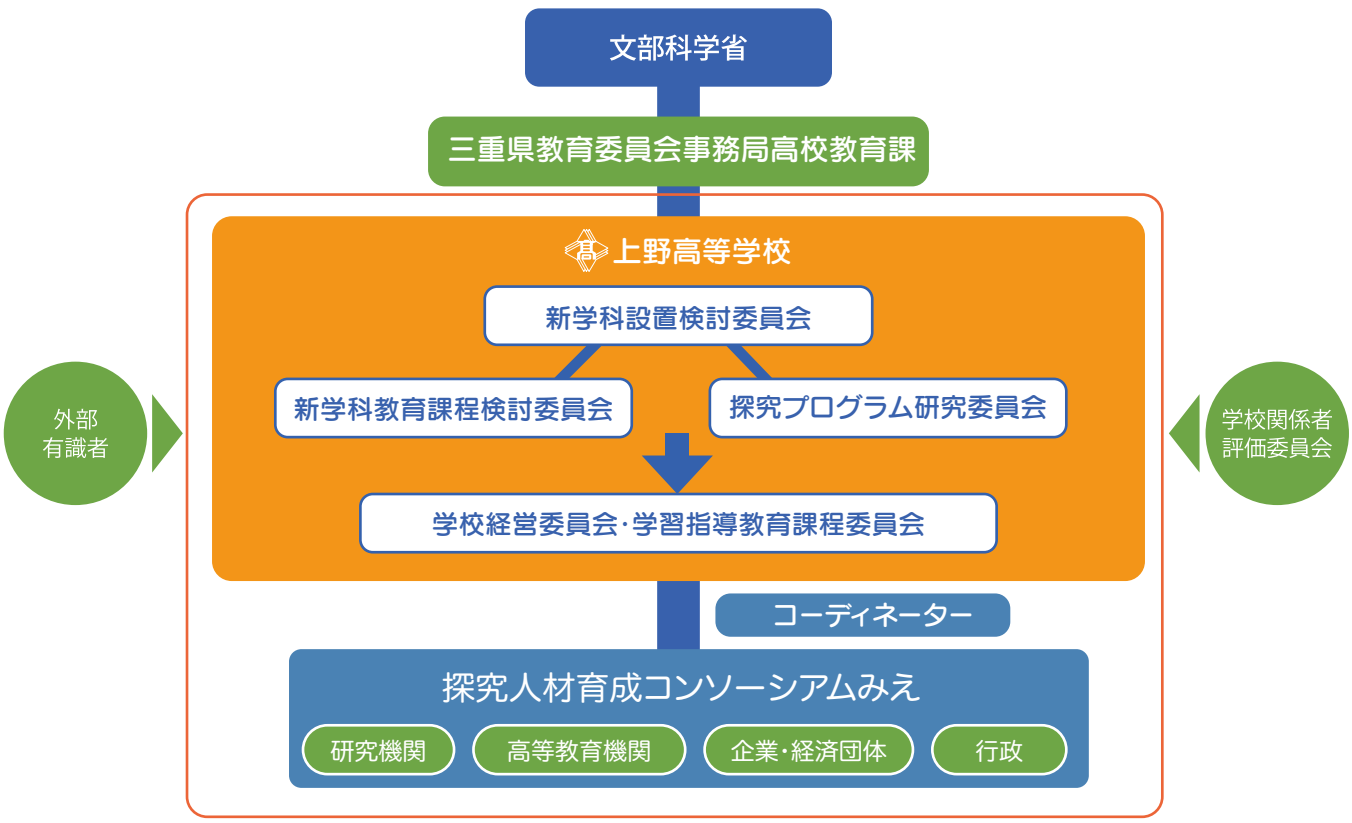
2.探究共創ネットワークの構築　～伊賀から世界へ～

① 外部の教育力の活用

② オンラインを活用した学びの充実

③ 学校を越えた高校生等との協働

■ 実施体制イメージ図



上高Feel度Shot

上高Feel度Shotは、「探究の必要性と意義を知って欲しい」という想いから、企画された授業です。この活動の目標は以下の3つです。

①気づきの感性を上げる　②新たな発見を体験する　③クリティカルに協働する

本年度は、活動へのモチベーションアップのために「人に知らせたいもの」を撮影してくるという課題にしました。そのため、自宅の周辺も撮影の対象に含め、身近な環境から探究できる機会を広げました。昨年度の反省を受け、一人ひとりの発表を記録し、さらに動画を見てくれた人の感想を直接聞く機会を作るため、ネット上での発表会を実施しました。これにより、外部からより具体的なフィードバックを得ることができ、生徒たちの探究活動の質を高めることができました。

上高Feel度Shot（UFS）学びの過程

5月 8日	発表練習 1
5月17日	発表練習 2
5月22日	発表練習 3（情報リテラシーについて①）
6月12日	発表練習 4（情報リテラシーについて②）
6月22日	発表練習 5（SDGsについて）
7月 3日	発表練習 6（SDGsについて）
9月 4日	テーマ設定
9月18日	テーマ設定 with メンター　1回目
9月25日	テーマ設定 with メンター　2回目
10月 2日	構成を考える with メンター
10月23日	構成ブラッシュアップ with メンター 1回目
10月30日	構成ブラッシュアップ with メンター 2回目
11月20日	ポスター発表（1年生全体）
11月27日	動画作成レクチャー&作成準備 with メンター
12月11日	動画作成準備
1月22日	動画撮影
2月 6日	仲間の動画をレビュー
2月12日	仲間の動画をレビュー with メンター
2月19日	発表会

上高Feel度Shot　サムネイル・ギャラリー

上高Feel度Shot（UFS）学びの５ステップ

ステップ1：気づきと探究準備

上高Feel度Shotの初期段階では、「気づきの感性を上げる」ことを目指し、情報リテラシーやSDGsについて計6回の発表練習を行いました。身近な環境から「人に知らせたいもの」を発見するための感性を養う期間であり、自宅周辺も撮影対象に含めることで、日常生活の中からの探究機会を広げました。

ステップ2：テーマ設定とメンタリング

9月には具体的な探究テーマの設定に取り組みました。「新たな発見を体験する」という目標に沿って、自分の興味に基づいたテーマを選定し、メンターとの2回のセッションを通じてテーマを洗練させていきました。この過程で、生徒たちの主体的な学びの意欲が高まりました。

ステップ3：構成の検討と改良

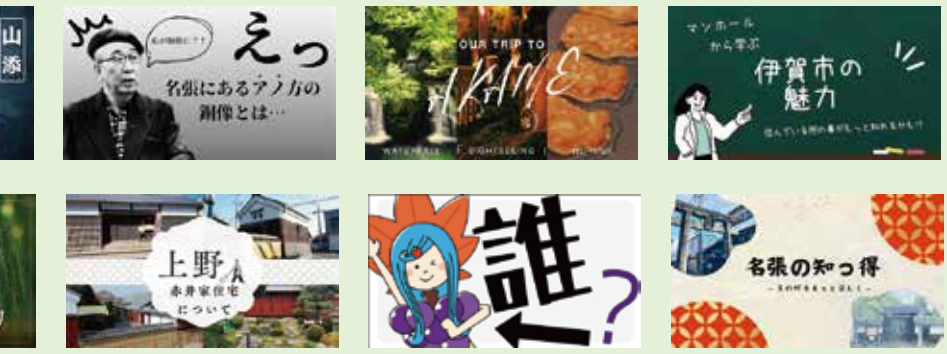
10月は探究内容の構成を考える段階へと進みました。構成案を作成し、メンターとのブラッシュアップセッションを2回行うことで、論理的で説得力のある構成へと改良しました。「クリティカルに協働する」力を養うため、対話を通じて多角的な視点から自分の構成を見直しました。

ステップ4：発表と制作

1年生全体でのポスター発表後、動画作成のレクチャーを受け、準備を進め、実際の撮影を行いました。「人に知らせたいもの」を効果的に伝えるための映像表現技術を学び、探究成果を視覚的に表現するクリエイティブな力とコミュニケーション能力を養いました。

ステップ5：フィードバックと最終発表

仲間やメンターと互いの動画をレビューし合い、改善点を見出しました。オンラインプレゼンテーションを実施し、外部からの具体的なフィードバックを得る機会としました。この経験は「クリティカルに協働する」力を高め、他者の視点を取り入れながら自分の探究を深化させる学びとなりました。



発表動画は、右２次元コードのリンク先からご覧いただけます。→

海外10カ国のゲストとSDGsについて意見交換

目標である「国内外を学びの場とした探究プログラムの開発」と学びの2本柱である「新しい時代に対応したカリキュラム及び教育方法の開発」を受け、本年度もオンライン国際交流を行いました。
本年度の交流相手はアメリカ合衆国、カナダ、ドイツ連邦共和国、フランス共和国、ロシア連邦、ガーナ共和国、ジャマイカ、アルゼンチン共和国、中華民国（台湾）、チュニジア共和国からのゲストと、SDGsの［Goal 5］ジェンダー平等について意見交流を行いました。
交流は10月15日から17日までの3日間にわたって実施され、初日は意見交換の準備、2日目はZoomを用いた海外ゲストとの意見交換、最終日は意見交換のまとめ発表会という流れで進行しました。参加者は日本の課題についてプレゼンテーションを行い、世界各国からの視点を学ぶ貴重な機会となりました。
発表会では各班が発表を行うことで、参加者全員が新たな視点や知識を得ることができる国際交流となりました。

【目的】

・海外に視野を広げる
・日本のSDGs［Goal 5］ Gender Equality　について考える
・自分の英語力を中心としたコミュニケーション力を試す
・チームで協働して、意見を発表する

【海外ゲスト（国・地域）】

・アメリカ合衆国 (United States of America)
・カナダ (Canada)
・ドイツ連邦共和国 (Federal Republic of Germany)
・フランス共和国 (French Republic)
・ロシア連邦 (Russian Federation)
・ガーナ共和国 (Republic of Ghana)
・ジャマイカ (Jamaica)
・アルゼンチン共和国 (Argentine Republic)
・中華民国 (Republic of China, commonly referred to as Taiwan)
・チュニジア共和国 (Republic of Tunisia)

【スケジュール】

10月15日（火）　13:05〜15:05　「意見交換準備」
・13:05〜13:30ガイダンス
　・「SDGsゴール５」と６つのターゲットと３つの具体的目標
　・日本の課題について
　・16日のグループディスカッションについての説明
・13:30〜15:00交流準備
　・提案準備（海外ゲストに日本の様子を約３分でプレゼン）
　・質問準備（相手国について聞きたいことをまとめる）
・15:00〜15:05 リフレクション

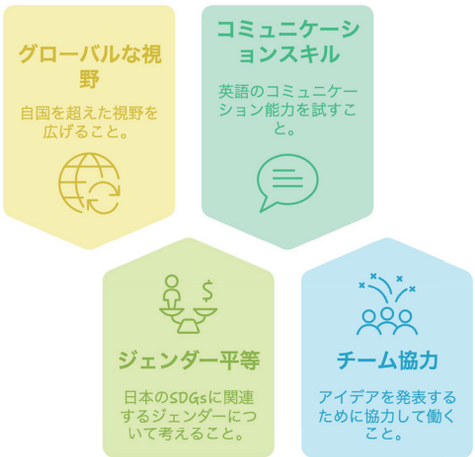
10月16日（水）　13:05〜16:05　「海外ゲストとの意見交換」
・13:05〜13:30 ガイダンス
・13:30〜14:00 チームで質問等の確認
・14:00〜14:50 ゲストと意見交換（ZOOM）
・14:50〜16:00 意見交換のまとめ+発表準備
・16:00〜16:05 リフレクション

10月17日（木）　13:05〜15:05　「意見交換のまとめ発表会」
・13:05〜13:10 ガイダンス
・13:10〜13:40 発表準備
・13:40〜14:40 発表（１チームにつき発表３分質疑＋質疑応答２分）
・14:40〜15:00 講評、表彰
・15:00〜15:05 リフレクション

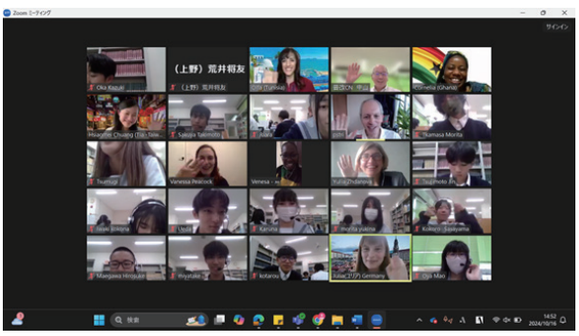
【その他】

・交流はネット会議システム（ZOOM）を使って行う
・発表会は会場で行い、海外ゲストにはZOOMで発信する。
・発表会では審査をし、優秀テームと準優秀チームを決定する。

目　標



ゲスト国

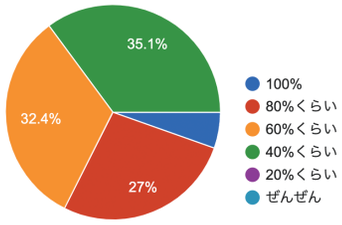


オンライン会議システムを使って世界１０カ国のゲストと「ジェンダー平等」について考えました

交流についての感想　〔リフレクションより〕

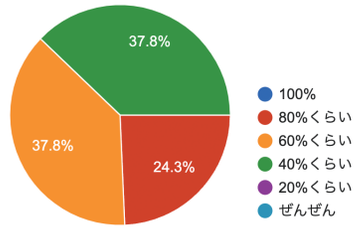
自分の英語はどれくらい通じたと思いますか？

37 件の回答



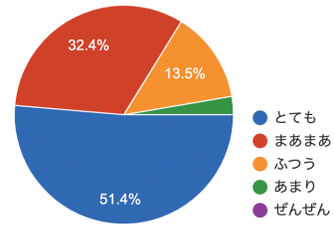
ゲストの英語はどれくらい聞き取れましたか？

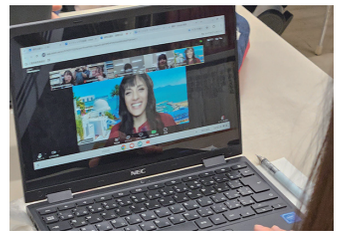
37 件の回答

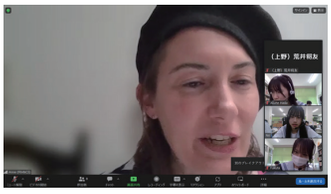


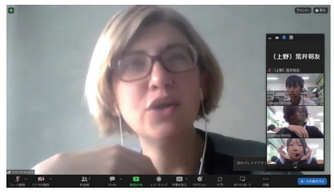
コミュニケーションは取れましたか？

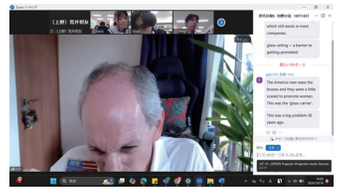
37 件の回答

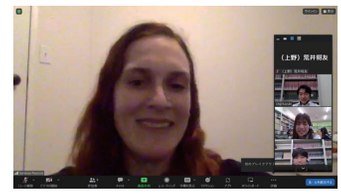






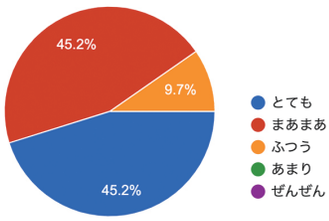






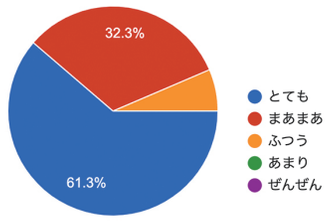
今日の発表の自己評価はどんな感じですか？

31 件の回答



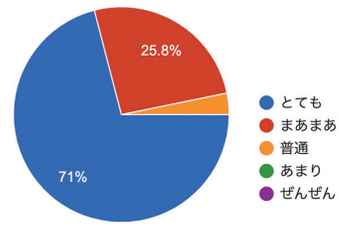
他の国の発表を聞くことは楽しかったですか？

31 件の回答



今日の授業に積極的に取り組めましたか？

31 件の回答



「今日、学んだことを一つ 書いてください」〔リフレクションより〕

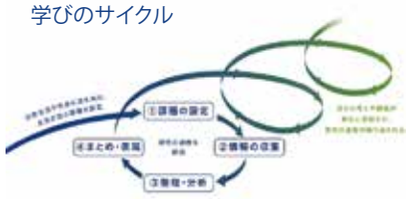
1. 言語学習･コミュニケーション
   - 意思疎通は難しいけど楽しい
   - 英語はぎこちなくても伝わることができる
   - 発音が全然違って聞き取れなかった
   - 英語を話せなくても積極的にはなすこと
   - 英語力がなくても伝えようとする姿勢が大事だと思った
   - カタコトでも伝えたいことを自分の分かる言葉で英語は伝わる
   - 英語力をつけたいなと思いました
   - 英語を自分の思ったとおりにいうのは難しい
   - 気持ちが大切
   - 英語の文章がバラバラでも伝えたいという思いで話すとより伝わる
   - ネイティブの話すスピードは早い
   - 積極的に話そうという気持ちが大事
   - 聞き取れなくても笑顔で反応するとなんとか通じたようになったので、チャレンジしてみるのが大切だと学んだ。
   - 笑ったら向こうもこちらも緊張せずに会話をすることができる
   - 意外と英語は根性で伝わる
   - 英語が上手くなくても、コミニケーション能力でどうにかなる

2. 異文化理解
   - 海外にも日本と同じような問題が起きていたこと
   - 相手の国について知っておくことは大事だと思った
   - チュニジアについて
   - アメリカのサッカー選手は男子よりも女子のほうが給料が多い
   - アルゼンチンと日本では世代別の人口が違って、ジェンダーに対しての考え方の広まり方や理解度が違うことが分かりました
   - ジェンダーだけでなく文化についても話せてよかった
   - アメリカでは男女、両方働かないと楽しく生活できないと知った
   - 台湾は日本よりも同性婚の意識が進んでいる
   - フランスはジェンダー平等が日本より進んでいると分かった

3. 交流の経験･学び
   - いろんな人と交流するのは自分とは違う意見を知れるので大事だとわかった
   - 海外の人たちと話すことの大変さ
   - 積極的に話しに行く意志をみせることが大切だということ
   - 日本語でもなんとかなること
   - 交流のたのしさ

大学生メンター　生徒の探究活動を振り返る機会を得るため支援をお願いしました

学びのサイクル



皇學館大学教育学部の全面的な支援を受けて、大学生メンター15人に生徒の探究活動の支援をしてもらいました。

今年度は1年生、2年生の授業にそれぞれ6回参加をしてもらい、最後の発表会にも代表のメンターに講評をしてもらいました。メンターには生徒が自分の学びを客観視し、探究のサイクルを回す支援をしてもらいました。生徒たち自身も「メンターは自分たちの学びに大きく役立った」という意見を持っており、メンタリングの効果を実感していることがわかります。

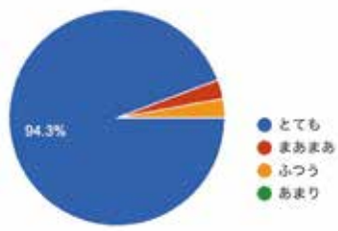
メンターが参加した授業

日	1年	2年
9月18日	テーマ設定 with メンター 1回目	自分たちの計画をメンターに説明
9月25日	テーマ設定 with メンター 2回目	計画をメンターとともに精査
10月 3日	構成を考える	課題を進める with メンター
10月23日	構成ブラッシュアップ with メンター 1回目	課題を進める with メンター
10月30日	構成ブラッシュアップ with メンター 2回目	課題を進める with メンター
11月27日	動画作成レクチャー＆作成準備 with メンター	課題を進める with メンター

1年生

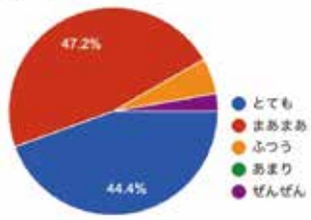
メンターの意見や質問は役に立ちましたか？

35 件の回答



1回目よりレベルアップしましたか？

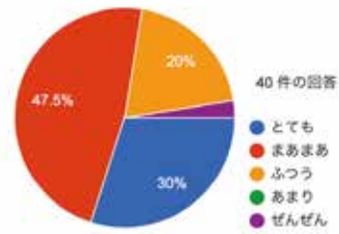
36 件の回答



2年生

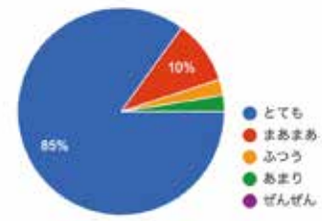
メンターに自分たちの活動について うまく伝えることができましたか？

40 件の回答



メンターはしっかり話を聞いてくれましたか？

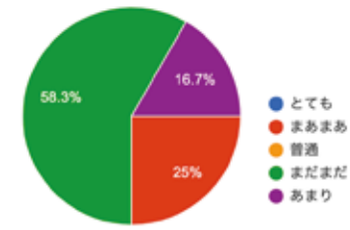
40 件の回答



メンター

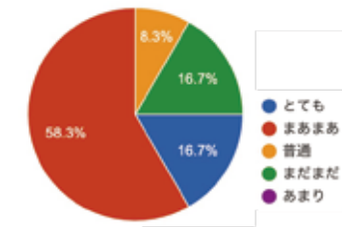
【1年】メンターとしての役割はできましたか？

12 件の回答



【2年】メンターとしての役割はできましたか？

12 件の回答



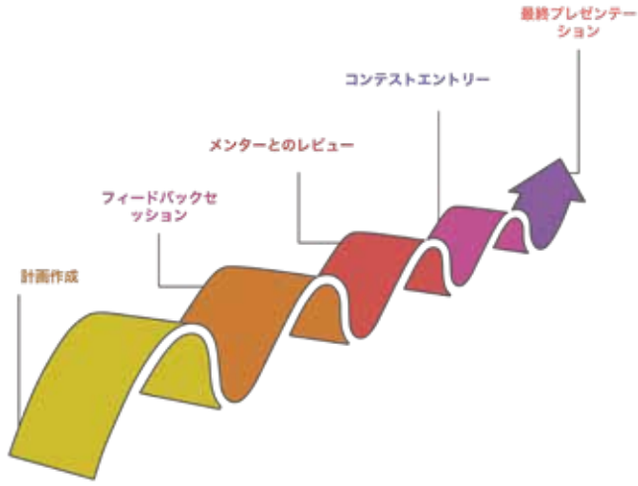
アクティブに行動する探究

「調べて学ぶ」ではなく「行動して学ぶ」活動

２年生の探究活動Sでは、43人の生徒が14のチームに分かれ、SDGsの達成に向けた活動に取り組みました。各チームは1人から6人の編成で、それぞれが持続可能な開発目標の実現に向けた課題に挑戦しました。

すべてのチームは研究者、行政関係者、地域の方々からの支援を受けながら進めることとしました。また単なる「調べ学習」に留まらず、課題解決のために自ら行動を起こすことを目標としました。このようなアプローチにより、各チームが協働して持続可能な社会の実現に向けた具体的な一歩を踏み出すことができました。

探究の流れ



本プロジェクトは4月24日の計画書作成から始まり、5月に企画発表を行いました。6月に仲間からのアドバイスを基に企画を精査し、7月に再発表しました。8〜9月に支援者を確定させ、9月からメンターと協力。10〜11月は課題に取り組み、コンテストにエントリーしました。12月に冬休みの計画を立て、1月に代表を決定。2月のブラッシュアップを経て、2月19日に最終発表会を実施しました。

探究のテーマ

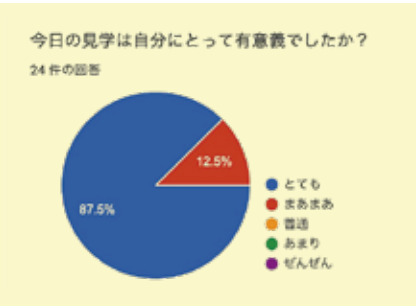
	テーマ		協力していただいた方々
A班	世界の貧困のために私たちができること	4人	ユニセフ三重協会
B班	小学生に必要な栄養を知ってもらおう	6人	上野東小学校＆給食センター
C班	伊賀市の観光客増加を目指す！	4人	伊賀市役所
D班	伊賀弁知ってだーこ	4人	皇學館大学　斎藤教授
E班	伊賀のだんじりと関西＆関東との違いと共通点	6人	伊賀市だんじり会館、語り部
F班	空家問題について、今、私たちができること	2人	伊賀市役所
G班	発禁から考える戦争と自由	1人	steAm BAND
H班	若者の生活環境と幸福度	1名	steAm BAND
I班	伊賀飲食店マップ	1名	上野商工会議所
J班	私たち企画のフォトコンテスト開催決定！	2名	赤目四十八滝渓谷保勝会
K班	温泉沼にはまるの巻	4名	さるびの温泉
L班	水の浄化	4名	本校教員
M班	上高の魅力発信	2名	3年生の生徒
N班	上野市駅周辺のPR計画について	3名	伊賀市役所

コンテストへの応募

これらの発表は、「第2回 steAm BAND 学びの協奏コンテスト」に応募し、福元 愛理 さんの「発禁から考える戦争と自由」が鈴木寛賞（審査員賞）に選ばれ、「私たち企画のフォトコンテスト開催決定！」「小学生に必要な栄養を知ってもらおう」「伊賀のだんじりと関西＆関東との違いと共通点」「伊賀弁知ってだーこ」の４チームが奨励賞を受賞しました。福元さんは、最終審査会で発表をし、鈴木寛東京大学教授から賞状を授与されました。

グローバル企業の見学　世界の「今」を知るために

「伊賀を想い、世界を見据え、社会の課題に挑戦し続ける人材の育成」を目標に、DMG森精機株式会社伊賀営業所を訪問しました。同社は5軸加工機・マシニングセンタ・CNC旋盤を強みとする世界最大手の工作機械メーカーであり、伊賀営業所は578,000㎡の敷地に1,500人以上が働くDMG MORI最大の生産拠点です。
昨年度の訪問では積極的な質問ができず、見学意欲が伝わらなかったという反省から、今年度は事前学習を徹底して行いました。導入として訪問意義とDMG森精機の概要説明後、英語力に応じて10班に分かれ、会社概要、グローバル展開、主力製品、必要能力、地域貢献、女性活躍、SDGs、今後の戦略について調査しました。各班はWebサイトやYouTube動画で情報収集し、3分間の発表準備を行いました。
訪問目的は「社会や企業を知る」「国際化を実感する」「質問する力を試す」の3点でした。
見学では、生徒たちは工場の広さや清潔さに驚きを示しました。セラミックなどの難削材を加工する機械や、ロボットを活用した製造工程に強い関心を寄せていました。
社員の約半数が外国籍であることから、グローバル環境で働くには相手国と自国の理解が重要だと学んだ生徒も多くいました。これにより地理や歴史学習の意義を再認識する機会となりました。
見学前は工作機械メーカーと日常生活との関連性が見えなかった生徒たちも、ドライヤーやペットボトル型、人工骨などの製造に同社の機械が使われていることを知り、身近な存在であることを実感しました。専門知識不要で機械操作ができるソフト開発にも関心を示していました。
生徒たちは地域社会貢献活動やSDGs取組にも注目し、「よりよい社会づくりのための技術革新」という視点を得たようです。質問にも丁寧に応じてもらい、専門内容も分かりやすく説明してもらえたことに感謝の声が多く聞かれました。



新学科「学際探究科」

上野高等学校は、文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業」を受け、令和7年度から新たな普通科「学際探究科」を開設することになりました。これは三重県初の学びの形です。
「学際探究科」は、「新時代に対応した高等学校改革推進事業」で培われた探究的な学びを活かした学科です。この事業を通じて開発されたプログラムに加え、データサイエンスやSTEAM学習といった最先端の教育も取り入れられます。これにより、生徒たちは従来の学科の枠を超え、文系・理系の知識を融合させながら、現代社会の複雑な課題に立ち向かう力を養うことになります。
これを受けて、令和7年度からは、「学際探究科」4クラスと「理数科」2クラスの体制となります。
上野高等学校は、長年にわたり地域社会に貢献してきた歴史と伝統のある学校です。しかし、時代の変化に合わせて、常に新しい教育に挑戦し続けています。この「学際探究科」の開設は、その象徴です。
さらに、上野高等学校では、この学科の新設に伴い、制服も一新されます。新しい制服は、生徒たちの新たな学びへの意欲を高め、学校全体の雰囲気を刷新してくれることでしょう。
今後の上野高等学校の新しい学び、そして、そこから巣立っていく生徒たちの活躍に、ぜひご注目ください。

支援体制

運営指導委員会

委　員	株式会社ナベル代表取締役社長	永井　規夫
	ＩＧＳ株式会社 執行役員 パートナー・ソリューション１部 部長	矢部　一成
	京都大学教育学研究科助教	久富　　望
	上野高等学校同窓会会長	土肥　稔治
	三重県教育委員会事務局高校教育課長	山北　正也
関係者	上野高等学校長	杉阪　英則
	上野高等学校 教頭	辻井　伸文
	上野高等学校 主幹教諭（事業担当者）	荒井　将友
	上野高等学校 教諭（事業担当者）	藤井　宏信
	三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事	竹田　　誠
	同	渡部　　明
	同	赤松　　樹
	三重県教育委員会事務局高校教育課 普通科改革コーディネーター	中山　隆之

探究人材育成コンソーシアムみえ

参加者	DMG森精機株式会社　アカデミー部長	小林　龍一
	株式会社steAm代表	中島さち子
	株式会社steAm	鈴鹿　　剛
	グーグル合同会社 Google for Education 営業統括本部 部長	杉浦　　剛
	立命館大学スポーツ健康科学部長	長積　　仁
	三重大学高等教育デザイン・推進機構准教授	宮下　伊吉
	皇學館大学教育学部准教授	野々垣明子
	伊賀市企画振興部地域創生課主幹	植田　充芳
	名張市役所総合企画政策室総合企画係長	西口　英司
	三重県観光部観光総務課長	菅生　和範
	三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事	竹田　　誠
	同	渡部　　明
	同	赤松　　樹

上野高等学校 担当者

校　　長	杉阪　英則	主幹教諭	荒井　将友
教　　頭	辻井　伸文	教　　諭	藤井　宏信
		常勤講師	八百田崇子

（敬称を省略させていただきました）

三重県立上野高等学校
〒518-0873　三重県伊賀市上野丸之内107
mail:arai.masatomo@mie-c.ed.jp（担当:荒井）

取組詳細

取組の詳細については、下記よりご覧ください。

※　授業内容や生徒の様子、アンケート結果等を掲載しています。

https://sites.google.com/mie-c.ed.jp/ueno-2024-tankyuu-s/home